

福島県における新聞広告の 展開ガイド

(福島民友新聞メディアデータ)

2022-2023

福島民友新聞社

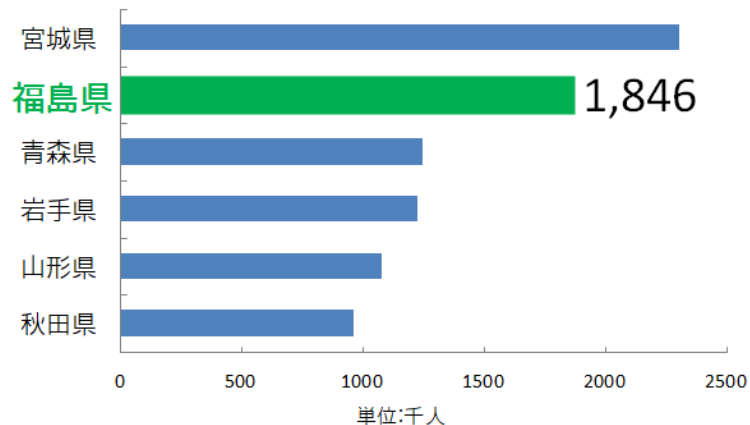
数字で見る福島県

東北6県で最も首都圏に近い福島県は、さまざまな産業が発達。活発な生産活動を背景にした生活向上意欲の高さが特徴となっています。

出展：福島県企画調整部統計課編「一目でわかる福島県の指標2021」

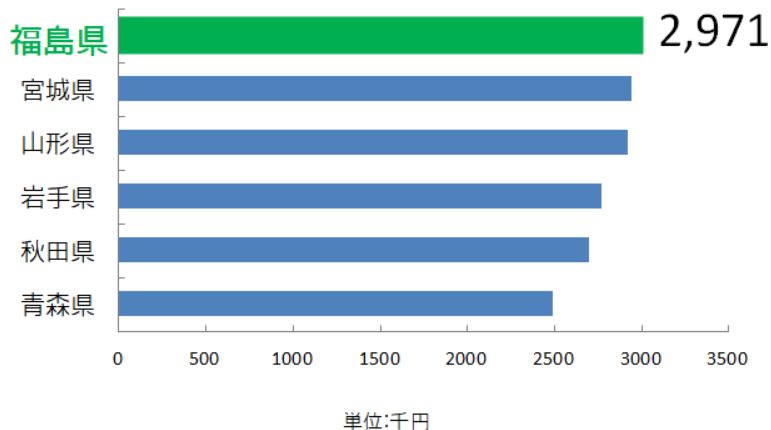
○総人口

福島県の人口は宮城県に次いで東北第2位。マーケットとしての実力を端的に物語る数字といえます。



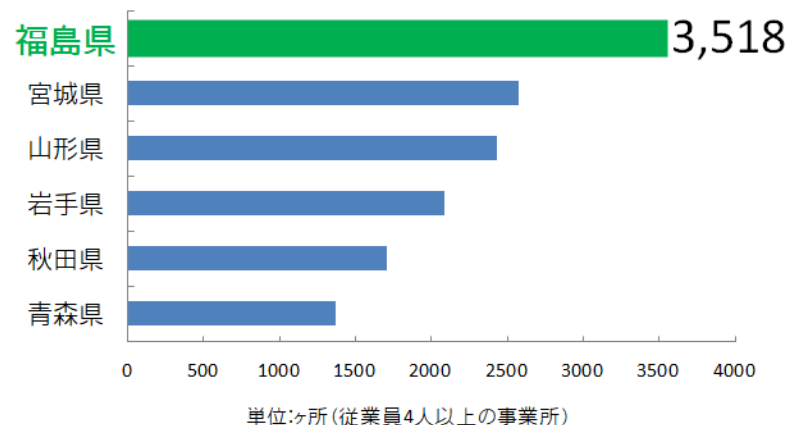
○1人当たりの県民所得

県内の居住者が県内外の生産活動で産み出す所得は東北第1位。県民の豊かな暮らしがうかがえます。



○製造業事業所数

地理的に首都圏から最も近いため、県外企業も含めた立地件数は東北でトップ。その結果、大量の製品が県内から産み出されています。



福島民友新聞・基本データ

●福島民友新聞 朝刊発行部数

158,870部

(2021年7~12月ABC平均部数)

●福島県世帯普及率

21.38%

(2021年7月~12月ABC平均部数、福島県現住人口調査年報 令和2年度版)

※世帯普及率算出方法=福島民友発行部数(158,870)/令和3年1月1日現在福島県総世帯数(742,990)×100

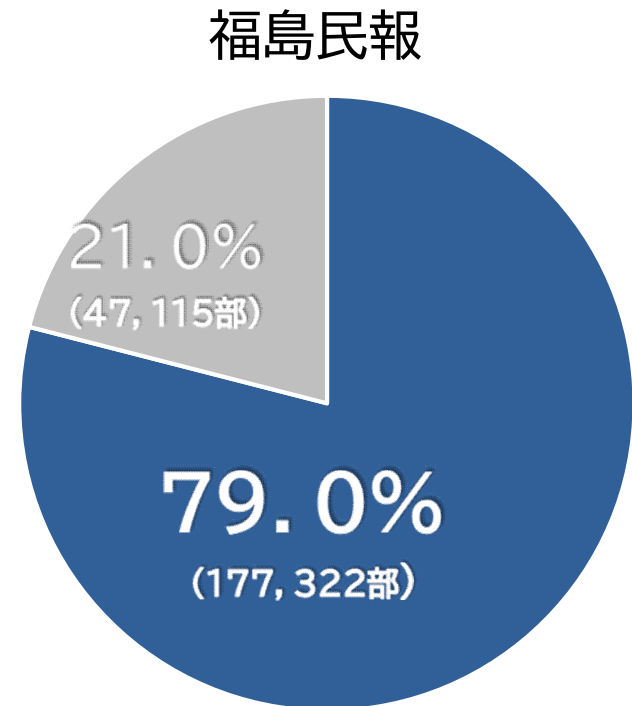
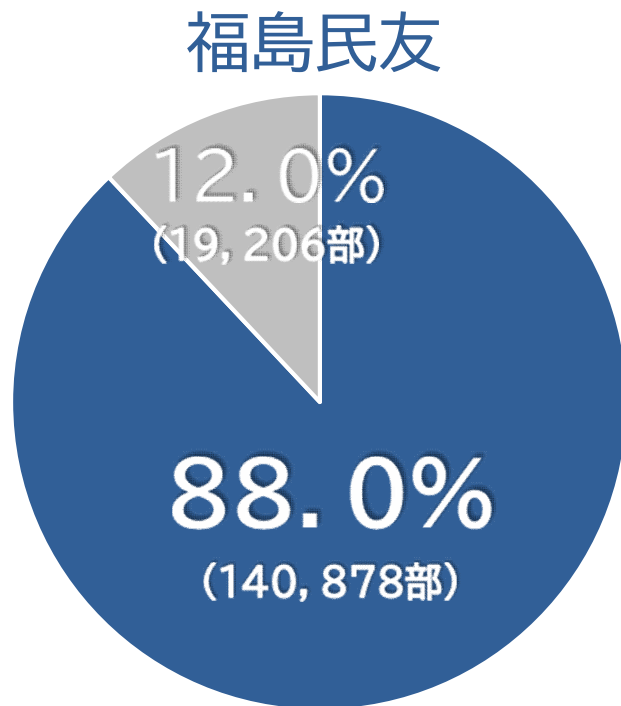
●福島民友新聞 回読率(宅配)

2.5人

※回読率…一部の新聞を何人が回し読みしているかを表す数値

●都市・郡部別構成

福島民友新聞の読者構成は都市部の割合が高くなっています。



■ 都市部 ■ 郡部 ()内は販売部数

※ABC協会2021年4月市区郡別部数表より

読者プロフィール①

健康・食の安全への関心

福島民友新聞の読者は、健康や食の安全などに対して高い関心を持っています

(単位：%)

健康について強い関心がある

福島民友 61.4

福島民報 47.4

全体 50.2

食品の安全性に注意している

福島民友 35.7

福島民報 27.8

全体 29.2

体重や血圧などの記録をしている

福島民友 31.4

福島民報 17.5

全体 20.2

定期的に健康食品を利用している

福島民友 14.3

福島民報 12.4

全体 12.6

読者プロフィール②

公衆道徳や社会貢献への関心

モラルや環境問題に意識が高く、地域コミュニティへの参加意欲も高いです

(単位：%)

日本のモラル・公衆道徳に関心

福島民友 47.1

福島民報 42.3

全体 43.5

地域のコミュニティに積極的に参加する

福島民友 35.7

福島民報 29.9

全体 26.9

リサイクルや環境保護の工夫する

福島民友 27.1

福島民報 26.8

全体 24.9

環境に力を入れるメーカーに共感わく

福島民友 18.6

福島民報 16.5

全体 15.8

読者プロフィール③

美容に対する意識

お肌の手入れや体形、体の臭いなど美容に対する意識の高い人が多いです。

(単位：%)

肌の手入れに気をくばっている

福島民友 22.9

福島民報 16.5

全体 18.6

顔の手入れに気をくばっている

福島民友 18.6

福島民報 13.4

全体 18.6

口臭・体臭などに気をくばる

福島民友 57.1

福島民報 47.4

全体 50.6

体型に気をくばっている

福島民友 28.6

福島民報 21.6

全体 24.9

福島民友新聞社は、SDGsをさらに社会に広めていくための発信を担う「SDGsメディア・コンパクト」に加盟しています。読者や県民から親しまれている福島民友新聞社の事業から、SDGsと同じ目標に向かっている代表的な取り組みを3つ紹介します。

まなぶん

新聞が教材 世界を学ぶ



本紙記者らが学校や企業を訪問して開催する「新聞ふれあい講座 まなぶん」は、新聞を教材に、世の中の動きを解説したり、新聞で学習効果を高める方法を紹介したりします。

学校向けの「まなぶん」は、小中高校の各教材に沿った読み方で記事を解説したり、新聞のできるまでを紹介したりします。見出しの付け方などワークシートを使った体験もできます。

企業、社会人向けでは、ビジネスシーンに役立つ新聞活用法や時事解説などをオーダー型で展開します。

みずウォーク

自然と共生 考える一歩



「うつくしまみずウォーク」は、早くから環境問題に取り組んできた福島民友新聞社が、1997（平成9）年から県内各地で開催し、県民の健康志向とマッチして愛されている事業です。

県民の生活を支えてきた自然豊かな川や湖沼とその周辺を舞台に、水環境に触れるウォーキングで、自然との共生を考えています。

現在は年4回計画し、これまで開催した約100回の参加者数は延べ15万人に上ります。

健康長寿

日本一への挑戦 後押し



SDGsの目標3にぴったり沿っているのが「健康長寿 福島の挑戦」です。2017（平成29）年7月からキャンペーンを展開しています。

福島県では東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の後、さまざまな理由から県民の健康指数が悪化し都道府県の中で下位に低迷しました。そこで、県民の健康に対する意識を刺激し、健康増進に向けて動き出してもらうよう多彩な取り組みを行っています。目標は健康長寿日本一です。

福島民友新聞社の主な取り組み



ふくしま元気UPプロジェクト

- 子どもの運動能力の向上のための親子イベントとして2014年度からスタート
- 2022年度は県内4会場で開催予定

【関連】

- 親子大運動会の開催(福島市)
- 健康をテーマとした各種広告企画特集



民友ゆうゆう倶楽部

- シニア世代の応援のため2015年1月に発足した会員組織
- 対象は福島県在住で満55歳以上の方で、入会費、年会費不要
- 健康をテーマとした講座などを開催
- ゆうゆう倶楽部通信を季刊発行し、健康、介護予防企画を掲載



福島県立医科大学と連携協定

- 福島県民の健康増進を目的に福島県立医科大学と連携協定を締結(2018年5月)、県民の健康づくり、健康意識の啓発などで連携
- 福島県立医科大学の専門医が講師を務め、最新医療などを分かりやすく解説する健康講座を福島市、郡山市など県内主要都市で開催

調査名：	2019年度 全国新聞総合調査（J-READ2019）
調査日：	2019年10月6日（日）～12日（土）
調査対象者：	調査時に満15歳～74歳の男女個人
有効回答数：	全国12,233人（福島地区:253人）
調査エリア：	全国47都道府県主要エリア
標本抽出法：	1. ビデオリサーチの過去調査対象者のリストから抽出。 2. 目標有効標本数に不足している標本数を地点・個人」の多段抽出し、調査員訪問による説得。
調査方法：	調査協力依頼に応諾した対象者に対し、調査票を郵送。 対象者は調査票への記入完了後、調査票を返送。
調査主体：	（株）ビデオリサーチ